

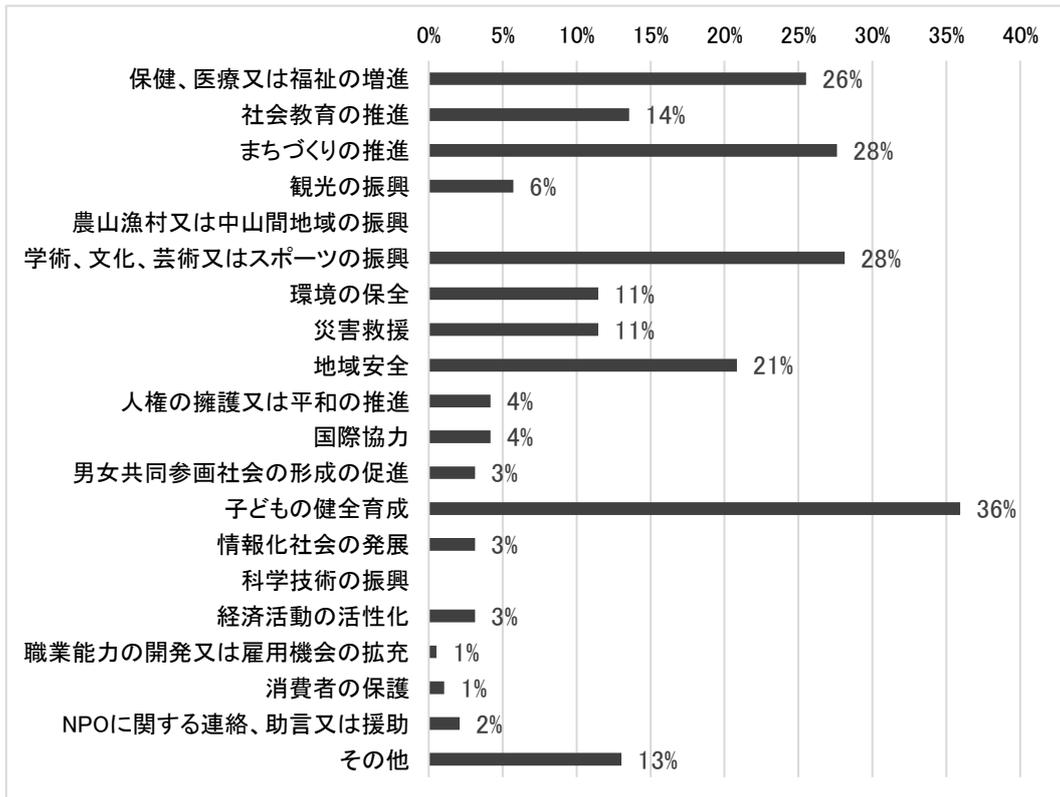
新型コロナウイルス感染症による活動への影響アンケート調査結果

■ 調査概要

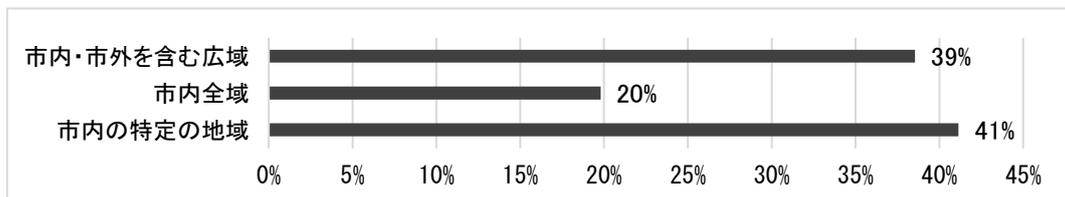
- ・調査対象：刈谷市民ボランティア活動センターの登録団体※市役所除く（486 団体）
回答数 = 192 団体 回収率 = 40%
- ・調査期間：2020/10/10～11/13

■ 回答団体概要

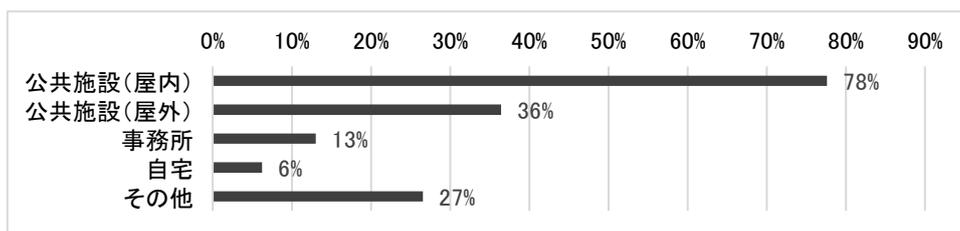
（1）活動分野



（2）活動対象地域



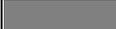
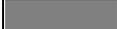
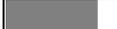
（3）活動場所



■ 調査結果

問 1 コロナ感染拡大によって貴団体の活動にどんな影響が出ているか？

3月～6月では、「イベントの中止」「定期的な活動を中止」がともに74%、「総会など必要な活動が開催できない」「活動場所が使えない」がともに54%で、過半数の団体に影響が出た。9月以降では「イベントの中止」は54%、「定期的な活動の中止」は35%と、減少傾向はあるものの依然として影響は大きい。

項目	3月～6月			7月～8月			9月以降		
イベントの中止	143	74%		126	66%		104	54%	
定期的な活動を中止	142	74%		102	53%		67	35%	
総会など必要な会議ができない	104	54%		54	28%		34	18%	
活動場所が使えない	103	54%		67	35%		42	22%	
情報共有が困難	31	16%		29	15%		15	8%	
活動方針が変化	56	29%		53	28%		49	26%	
収入の減少	50	26%		48	25%		39	20%	
回答なし	14	7%		31	16%		55	29%	

特に受けた影響（主な意見を抜粋）

ア：大人数が集まるイベントの中止

- ・盆踊り大会、敬老会など地区行事のほぼ全てが中止
- ・町内会全員を対象としたイベントを中止せざるを得なかった
- ・総合スポーツクラブ：イベント中止で発表する機会がない。ミニテニス協会年度内大会開会はゼロ
- ・その他、中止したイベントの例（夏のかりがね祭り、あったかハートまつり、ウォーキング・ランニング、ミニコンサート、市外県外とのスポーツ交流大会、文協芸能祭（安城）、補助金事業＝お宝探しウォーキング等）

イ：防災訓練

- ・地区防災訓練の縮小、避難所訓練は全て中止。ただし、機器点検と備蓄品チェックのみ実施

ウ：ボランティア募集に影響

- ・密を避けるため、積極的なボランティア募集案内ができなくなった
- ・名古屋ウィメンズマラソンのボランティア中止

エ：定期的な活動の中止

- ・小学校へ読み聞かせやおはなし会の中止
- ・7月に一度だけ茶話会を開催したが、高齢者が対象のため8月以降は休止
- ・海外出張や海外ボランティア、スタディツアーの中止
- ・住民・利用者への訪問が制限された
- ・市民放送局の番組の制作にあたり、イベント自粛され、取材や放送作品ができない
- ・史跡巡りができない
- ・町内の老若男女どなたでも参加できる情報交換や雑談する場であるため、三密を避けるために活動は不可能となった

- ・認知症カフェやサロンを定期的に行っていたが今年度は1回しかできなかった
- ・傾聴訪問を定期的の実施していたが特に老人ホームへの訪問は実施できなかった

オ：練習・自己研鑽ができない

- ・勉強のための講座の日時や内容を変更したことで、新入会員の指導が進まなくなった
- ・家での自主練習が続き合同練習が出来ない

カ：活動場所が使えない

- ・会場の利用ができない（多数）
- ・人数制限による分散教室
- ・春先の案内や連絡がしたい時期に印刷する場所が無くて大変不自由した
- ・学校施設の体育館が使用できないため、事実上の活動はまったく出来ていない

キ：収入の減少

- ・飲み歩きイベント、ワークショップの開催等の中止による収入の減少。今後は開催出来たとしても規模の縮小のため収入が見込めない
- ・企業からの寄付の減額
- ・障害福祉サービス事業を運営しているが、内職作業の大幅減、イベント中止に伴う自主製品の購買数の大幅減があり収入面で不安定
- ・公民館臨時閉館に伴う館収入の減少
- ・大きな収入源である街頭募金活動ができず大きく影響を受けている

ク：採算が合わない、想定外の出費、備品管理の問題

- ・お茶会を開きたいが、収容人数を考えるとスタッフだけでその人数になり、また客人数が減ることで採算が合わなくなる
- ・恒例の行事が開催できず各方面への連絡等もあり思いがけぬ仕事と出費があった
- ・秋のイベント分までの材料を購入していたので在庫管理に困っている

ケ：情報共有が困難、活力・意欲の低下

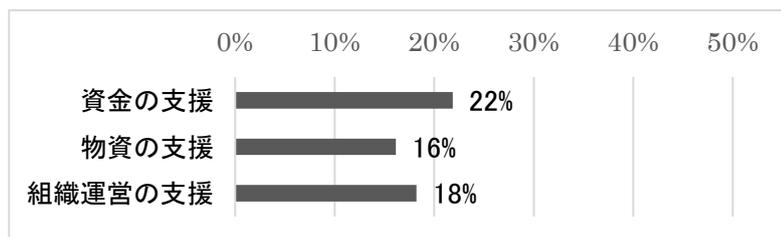
- ・活動ができなくコミュニケーションがない
- ・全ての方の活動意欲が次第にそがれていって前に向けた行動がしづらくなった
- ・活動の変更等決めること、現状を確認すべきことが多く、未来に焦点があてられない
- ・毎年行っているポッチャや演芸大会等公共施設の使用が出来ない期間があったため、会員の皆さんとの交流が出来なく日々の生活が沈んでしまった

コ：活動方針の変更、活動方法の変化、規模縮小・活動時間短縮等

- ・熊本県人吉市の現地での復旧活動等計画したが、支援物資の提供に変更する
- ・3密をさけるため外部から訪問をリモートに変えた
- ・10月からは実態調査のため、短時間訪問対応している

問 2 コロナ感染症の影響に対して、必要な支援は何か。

「資金の支援」22%、「組織運営の支援」18%、「物資の支援」16%の順となった。



1) 資金に関わること

- ア：会場費 公共施設の定員が変わり、今まで以上に会場費が必要となっている
- イ：事業実施対策費用 感染予防を行った上での行事に対して運営資金の具体的援助
- ウ：財政悪化の理由 収入減のため、給与、家賃等の固定費の支払いが厳しい
- エ：事業収入減への対策 クッキー等の販売に対して少しでも支援がほしい

2) 物資の支援に関わること

- ア：消毒液・マスク等 初期は市が適切に対応してもらえると地域は活動しやすい
- イ：情報機器 タブレット、オンラインで使用する機器の供給
- ウ：活動に基づく要望 避難所収容人数の見直し、不足キャパの補填、防疫体制充実

3) 組織運営に関わること

ア：方針を示してほしい

- ・ボランティアを開始する目安。他のボランティア団体の様子をうかがっている
- ・市としての時機を逸することのない依頼（指示）

イ：正確な情報

- ・社会生活を営み地域活動に前向きになれる材料があると良い
- ・感染対策に対する市民の理解（特に施設に対して）

ウ：情報共有の仕組み

- ・管理運営上の対応・利用制限等に関する各地区等の情報を共有できるようにしてほしい
- ・他団体の情報共有が少なくなった

エ：会場確保に関わること

- ・机・椅子の間隔を保つと作業する机が足りなく、不便を感じている
- ・生涯学習センターの会議室・パソコン教室にセパレータ等を導入してほしい

オ：IT活用の研修の機会・技術支援

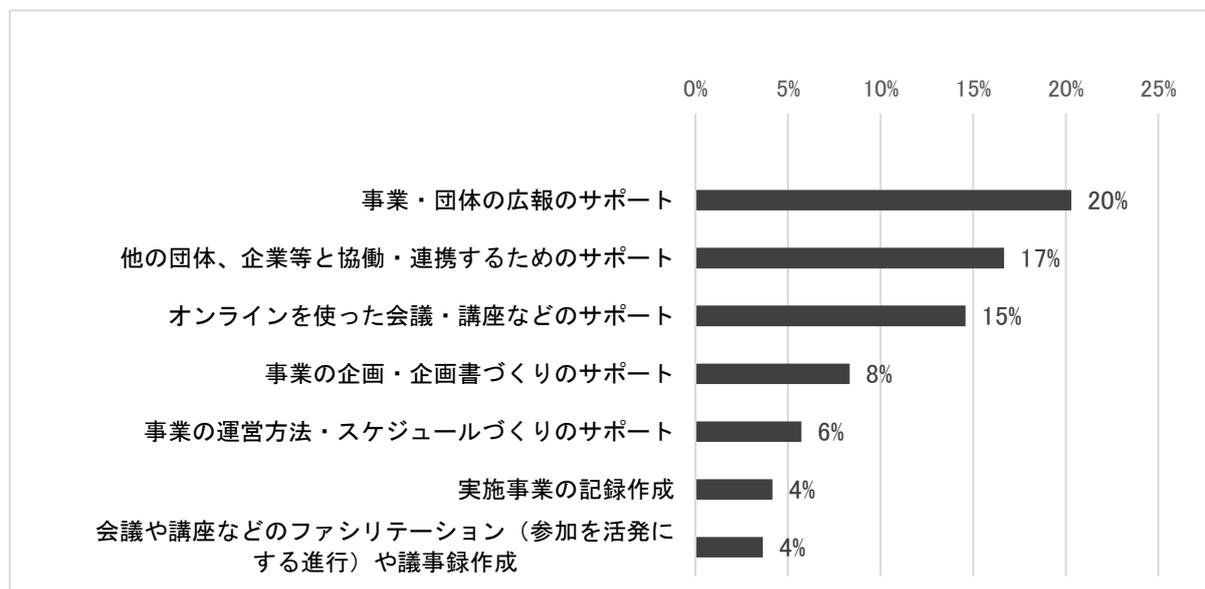
- ・テレワーク、Zoom等の講習支援

カ：相談対応・助言

- ・感染対策を講じたイベント開催時のサポート
- ・感染対策の方法など相談できる場が欲しい

問 3 感染症の影響に限らず、どのような支援があったら利用したいか

「広報のサポート」20%、「協働・連携のサポート」17%、「オンラインを使った会議・講座のサポート」15%、「事業の企画・企画書づくりのサポート」8%の順となった。



ア：広報のサポート

<自団体による広報へのサポート>

- ・会員拡大のサポート
- ・地域への周知や担い手を募ること
- ・チラシだけでなくインターネットを使って紹介したい
- ・団体のホームページの作成及び更新
- ・より魅力的なちらし・ポスター制作
- ・広報用映像の撮影編集作業や広報冊子の編集（取材→記事→レイアウトデザイン）、動画編集の講座

<市民だよりへの要望>

- ・市民だより等に活動分野別で紹介コーナーを設けてほしい
- ・市民だよりに地域の情報スペースを作ってもらいたい

<認知の拡大>

- ・もっと広く要約筆記を知ってもらい、活動したい
- ・市民アンケートの結果からスポーツ推進委員、総合型の認知度が低い
- ・ボランティアが活動している内容を広く定期的にお知らせしたい
- ・障害者の理解促進が今まで以上になるようにあらゆる機会で開催活動を行ってほしい

イ：協働・連携のサポート

- ・同じ障害福祉分野だけでなく今後も様々な分野の団体と連携し障害を持つ方たちの活躍の場を増やしたい
- ・市民のスポーツ実施率向上のための協働（免疫力向上のための運動の要望がより高くなったと感じている）
- ・月に一度認知症カフェを開催しているが内容が体操カラオケ等でマンネリ化している。ボランティア団体と協力するなど盛り上げていきたい。

ウ：オンラインを使った会議・講座等へのサポート

- ・ 出前講座のオンライン、リモート講座にシフト
- ・ 講演会を Zoom で開催出来ないかと検討中
- ・ Zoom 等を活用し学習ができるといい
- ・ オンラインを使って地域ケア会議などが開催できるように支援してほしい

エ：事業の企画・企画書づくりのサポート

- ・ 今後どのような事を企画推進して行くべきか悩む
- ・ ニューノーマルの活動アイデアがあれば情報収集したい
- ・ 傾聴カフェを年2回ほど実施していたが、マンネリにならないためにどのようにカフェを開催したらよいか検討中
- ・ 企画等をお手伝いするボランティアを募集したい
- ・ 避難所開設時の自主防災リーダーや町内会役員組長の実施訓練をどう計画するか

オ：事業の運営方法

- ・ 自主防災会も活動してくると人員も多くなり担い手（まとめ役）が不足してくる。相談相手が欲しい。
- ・ 史跡巡りに対してのコロナ対応
- ・ 基本的な感染対策。（例えば）クラスを開催する場合ソーシャルディスタンスが取れる距離や工夫など

カ：その他

- ・ 被災地での復旧作業での感染防止対策
- ・ スタッフが少ないので当日の記録に手が回らない
- ・ 作業の手伝い。労働面での支援
- ・ 住民の避難所（3ヶ所ある）の活用実態を把握すること
- ・ 助成金（行政、企業等）の迅速でタイムリーな情報発信

問 4 感染症拡大の影響を受け、新たに始めた取組

ア：オンライン会議（多数）

- ・ボラセンで Zoom ミニ講座を受けてつむぎ場 12 に参加する事にした。苦手なオンライン参加を時々でも受けて会員のためになる情報が得られる第一歩を始めた。
- ・グループラインの活用

イ：オンラインでの事業実施（多数）

- ・会議体のWEB化。ライブ配信業務
- ・リモートで勉強会。ハイブリッド研修の実施
- ・オンラインでの採用活動・在宅支援、オンライン面談
- ・オンライン・インターン、在宅ボランティア、チャリティ商品のオンラインストア立ち上げ。海外とのオンライン交流、YouTube への動画 up
- ・講座やワークショップを YouTube チャンネルにて動画配信
- ・オンラインをとり入れた全国イベントを来年開催予定
- ・チャレンジ動画（個人のチャレンジ）を作成し、つながりがとぎれないように（チームとして）動画でつながりを保つ
- ・婦人会活動紹介DVDの作成

ウ：感染対策を伴った事業運営

- ・手洗い時間の増加／こまめな消毒／換気／フェイスシールド／検温
- ・少人数でのグループ活動。例：給食隊、避難所隊など隊毎に課題の洗い出し、備蓄点検など役員でできる事を行っている（組織強化）／分散練習
- ・会議を短時間で行う
- ・事業参加者の特定を怠らないこと。会議へのオブザーバー参加の中止
- ・3密の回避／3密とならないスポーツの普及
- ・定期的に会員相互の健康状態の把握
- ・一人暮らしの高齢者の方のつどいで飲食物を提供せずに時間を短縮して再開する

エ：活動内容のアレンジ・代替的な活動

- ・文化祭が中止となったので文化祭に出品する作品を集め、パンフレットを作り地区内の全戸に配布すると同時にホームページを作り掲載
- ・デイサービスなどへの訪問ができないため、作品の材料を1人分ずつ用意してスタッフのみレクチャーを行い利用者が作品を製作
- ・敬老会対象者への「メッセージカードの配布」。全住民を対象にした「高須探訪ウォーキングクイズ」。文化展出展にあわせた「風の材料配布」
- ・企業社員による商品作りなどの（アイデア出し）サポート
- ・外で食事の提供。食糧支援としての配達

オ：その他

- ・活動場所の変更（広い会場を使う等）
- ・自分事を考えウィズコロナの時代に生きていることを話し合う機会を持つこと

問 5 今後の活動に関して感じていること、気になっていること。

ア：事業の継続への不安／事業内容・運営の変更等

- ・今後の活動等を見直す機会となり、改革できるところは改革をしていきたいが、事業の中止・規模縮小により実施しなくても良いのではという声が出る事を危惧する

イ：参加者・協力者・会員の減少

- ・イベント中止が相次ぎ、今後開催された場合以前のように協力が得られるか
- ・活動の減少により会員の減少が懸念される

ウ：利用者・対象者へのアプローチ

- ・今まで以上に引きこもりがちな乳幼児を持つお母さんたち／高齢者の方々の見守り等における訪問は極力避けることとされていること

エ：団体内の情報共有・コミュニケーション

- ・会員相互の人間関係が薄くなり、各行事への参加人数が減ってしまう。またイベント等の運営方法の伝承が出来なくなる

オ：活力・意欲の低下、自己研鑽の困難

- ・交流がないので活力が出ない
- ・「踊り」を行っているため披露する場がなく練習も身が入らず意識の低下。

カ：ボランティア活動の捉え方

- ・ボランティア受け入れがいつになるのか予測できないため会の活動の再開が難しい
- ・遠くにいてもできるボランティアがあれば社内に展開していきたい

キ：高齢化

- ・メンバーの高齢化で新しい人を増やす必要がある。講習会を計画したり、参加を呼びかける機会が遠くなった

ク：今後を考える機会に

- ・大変ではあったが立ち止まって会の方向を考えるチャンスにしたい

ケ：感染症対策、判断・手順

- ・コロナ等の感染者が万が一出た時の対応

コ：会場・施設の課題

- ・各センターのパソコン教室のパソコンが色々なガードがかかっているので使いづらい

サ：資金

- ・イベント準備段階でのイベント中止の場合、資金、物資、広報面での保障、支援が必要
- ・助成金情報

シ：情報

- ・企業のボランティア団体の情報がなかなか流れてこない

ス：活動の継続

- ・役割を終えたと思っている
- ・団員減少による運営上の支障が出て来ている。各団同士の合同、合併
- ・婦人会を必要としない地区もあるのではと感じている

セ：IT活用

- ・行政、公共施設のIT化、デジタル化の遅れ、ネット環境の遅れ（例）体育館のWi-Fi化、市民館Wi-Fi化、生涯学習センターパソコン教室等

ソ：避難所運営、災害時対応

- ・避難所運営に対し感染症対策を考えると収容人数が圧倒的に少ない。現状の指定避難所以外にどう避難するか各個事前に考えておく必要がある